

第二期武蔵野市市民活動促進基本計画策定に係る論点(たたき台)

これまでの策定委員会での意見、アンケート調査結果、昨年度までの市民活動推進委員会での意見、庁内ワーキングチーム(以下「WT」)の意見等を踏まえ、今回の計画策定における論点を以下の通り整理します。

※箇条書き記号

◎ 策定委員会と WT の双方 ○ 策定委員会 ◆ WT ● 昨年度までの委員会 ◇ アンケート

論点① オンラインツールの基盤整備と活用支援をいかに進めるか

〈概要〉活動を停滞させず、可能性を広げるオンラインツールの活用促進に取り組むことが急務。公共施設における Wi-Fi 等の基盤整備を進めつつ、オンラインの利用状況に団体間で格差がある状況を鑑み、さまざまな手段を通じて利用のサポートを充実させる必要がある。

〈これまでの議論で挙げられた意見〉

- ◎情報格差の拡大防止が必要
- ◎オンライン環境の整備・提供が必要
- コミセンのデジタル化・Wi-Fi 整備とそれに向けた運営者の学びが必要
- ◆技術指導にかける労力の確保が必要
- オンラインツールのリスクについての学び、理解している人材の配置が必要
- 個人の市民活動の促進に向けた、オンラインでの活動支援が必要

〈これまでの主な取組み〉

- ・プレイス 各種 Zoom 活用講座、マンツーマンの初心者向け Zoom 指導(大学生の協力あり)
- ・ボラセン Zoom ボランティア養成講座(大学生の協力あり)
- ・コミセン 各コミュニティ協議会どうしの Zoom の学習会、コミセン行事・会議等での活用
- ・コミセン 初心者向けスマホ講習会

論点② 対象者の技能・状況等に応じた市民活動への参加促進

〈概要〉「市民活動のきっかけづくり」を行う上では、オールターゲットの取り組みだけでなく、働きかける対象の技能・状況等に応じた「きっかけづくり」を仕掛けていくことが有効と考えられる。

〈これまでの議論等で挙げられた意見〉

- ◎市民の技能を活用した協働関係の構築(広報物作成やオンラインツール活用指導などの事例あり)
- インターンシップとしての大学生の参加があるとよい
- ◆小中学生の参加体験を進められるとよい
- ◆新しい担い手と現在の活動者を結び切り口の創出(例:学生によるオンラインツール利用法の指導)
- 人材が流動的な「プロジェクト方式」での活動展開(「入ったら抜けられない」雰囲気の打破、という意見も WT では挙がった)が有効ではないか

〈これまでの主な取組み〉

- ・プレイス 各種イベント、講座事業
- ・ボラセン 中学生以上対象のボランティア体験事業、大学のボランティアサークルとの連携
- ・コミセン 人材バンクの試行

論点③ 参加の「一歩目」の支援

〈概要〉新規活動者の獲得が団体の課題となっている中、「きっかけづくり」(市民の背中を押す)に加え、ハードルを解消する方向での「一歩目」の支援も重要と考えられる。

〈これまでの議論等で挙げられた意見〉

- ◎参加負担の軽減が必要(例:ライフスタイルやスキルに応じた柔軟な参加要件、オンライン参加、業務負

- 担の改善、閉塞的雰囲気解消など)
- 市民活動への参加の第一歩のハードルの解消が必要(参加体験の場の設定など)
- 武蔵野プレイスの個人利用者や講演会参加者等の学びを活動につなげる支援が必要
- プレイスでは講演会参加後のマッチングに着手済み(H29 市民活動推進委員会評価より)
- コミセンやプレイスの「地域の居場所」化が進むとよい(特段目的のない来訪者と市民活動との出会い)

論点④ 「連携と協働」をさらに効果的に推進するためにどう取り組むべきか

〈概要〉これまで連携・協働が推進されてきた中で、アンケート調査結果では、関連の取り組み(現計画 P30~31、基本施策4)についての団体の満足度は、他項目と比べて低い(ただし各項目とも6~8割が「どちらでもない」「不明・無回答」であることに留意が必要)。

行政や企業等も含め、どのように今後「連携と協働」を推進していくのか検討が必要。

〈これまでの議論等で挙げられた意見〉

- 多様な主体による市民協働の仕組みをさらに整えていく必要(例:プレイスを介さず活動団体同士が自発的に協働していける仕組み、商店街との連携、団体の形をとらない市民活動主体との協働など)
- 民間事業者等との連携を進めるべき(活動場所や人材確保)
- 「企業の市民活動」という観点も必要
- 庁内連携が不十分である(課題意識の共有や、課題解決の方策の検討)
- 行政による「固くない」相談窓口が必要
- 行政と市民の協働をさらに進めるべき(職員研修、職員・市民がともに学ぶ場)
- ◆団体と協働での担い手づくりが有効

〈これまでの主な取り組み〉

- ・自治基本条例の制定、協働の定義や市民参加手続(パブリックコメント・意見交換会など)の明文化

論点⑤ コーディネート機能の発揮・向上に向けた取り組みをどうすべきか

〈概要〉これまでも重視されてきた「コーディネート機能」については、現行計画には詳しく記載されているが、今後取り組んでいくべき事業をより具体化させていく必要がある。

※論点②・③・④とも関係する

〈これまでの議論で挙げられた意見〉

- ◆活動団体の状況の捕捉(プレイス登録団体へのヒアリング等)
- 「新たに活動したい」人への適切な情報提供・データベース構築(団体のマッピング、一覧化など)

〈これまでの主な取り組み〉

- ・職員向けの協働・コーディネート力研修(H25,27,29,30)

論点⑥ プレイスの市民活動支援機能のさらなる充実

〈概要〉市民活動促進において重要な役割をもつプレイスの機能について、論点①~⑤なども踏まえつつ、充実・強化していくべき事項の具体化・洗い出しが必要。

〈これまでの議論で挙げられた意見〉

- プレイス3階(市民活動フロア)の雰囲気演出(職員紹介の掲示など)
- 既存施設を活用した市東部における相談対応機能の創出と、そこからプレイスへの誘導
- プレイスのリーチ範囲の延伸(例:文化事業団との統合を背景とした新たな分野の団体とのつながり、オンライン環境を整備して「その場に集まらない」活動の展開、など)
- ◆プレイスの機能向上(施設の充実、広報強化、運営への「運営協議会」の意見反映、など)